

社会福祉法人容雅会 令和5年度事業報告

令和5年度は、地域に根ざした法人として、皆様の「変わらぬ日常」を支えることに重きをおいた運営を目指して運営をして参りました。

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行し、かつての日常に近い生活が戻って参りました。しかし、重篤化しやすい高齢者が生活をする施設であるため、これまで通りの対策や習慣を継続してきたことにより、クラスターの発生が起きることなく令和5年度を経過いたしました。ご家族様との面会や外出行事、イベントなどもその時々状況を鑑み、段階を踏みながら少しずつ以前の状況に近い形に戻しております。それにより利用者様、ご家族様の生活の楽しみやストレスの緩和、明るさ、笑顔が増えてきていることも実感しております。

特別養護老人ホームに関しましては、各事業間における利用者様の情報共有を密にし、また各事業の相談部門や居宅介護支援事業所との連携を強化することにより効率的な稼働の維持向上を目標としておりましたが入居者様の高齢化、重症化により入院、死亡退所などが相次ぎ、空床期間が長期化し、予定稼働率を下回る結果となりました。

ショートステイ、デイサービスの在宅部門に関しては、前年度よりはやや好調だったものの、安定的な稼働率を出すところまでは至りませんでした。居宅介護支援事業所は小名浜、内郷共に地域とのつながりを重視した運営の中で利用者の獲得に奔走し、保育事業に関しては介護部門同様に人材不足に悩まされた一年となりました。

営業活動、求人活動においては期間途中から創設したシニアアドバイザー部門が積極的に对外活動を行うことにより、令和6年度から始まった2つの新たな事業にもつながる活躍をして参りました。

ひとつめの事業は「よろず相談 ら・し・さ」というイオンモールいわき小名浜にて2ヶ月に一度定期開催をする地域住民向け啓発活動となります。令和6年4月からこのイベントを開催することにより、福祉や医療に対する興味関心を持っていただき、様々な地域資源の活用、ひいてはサニーポート小名浜のいわき市における知名度向上にもつなげることを目的としております。

ふたつめの事業は、聴覚障害者向けサロン事業「サポカフェ小名浜33（さんさん）」です。こちらは聴覚障害者である職員の雇用をきっかけに、聴覚障害者の現状、窮状を知り、私たち社会福祉法人としてできることはないかと考えたことに端を発した事業となります。令和5年8月に関西にある聴覚障害者向けの特別養護老人ホームなど2施設を視察に行き、私たちにも本当に力になれることはあるのか等の検討を重ねた結果、令和6年6月に第一回目を迎える運びとなりました。

どちらの事業もこれまでも、これからも変わらぬ日常を続けることができるように、「その人らしさを守るということ」という法人理念のもと、利用者様の「その人らしさ」に寄り添い、大切にしながら、皆様にこれまでと変わらぬ日常を届けられるようにするための事業であります。

また、令和5年度は初めての外国人材の登用など、職員の体制においても大きな変化がある年度となりました。ミャンマー国籍の特定技能3名、技能実習生3名の計6名を11月から12月にかけて迎え入れ、初期研修の後、各部署へ配属いたしました。約半年が経過する現在、各自が介護技術や日本語の研鑽を積み、介護の担い手として日々業務に励んでおります。共に働く日本人職員も、やさしく手を差し伸べてくれており、国籍に関係なく共に働く仲間としての意識が醸成されてきている状態です。また看取りケアの増加に伴い、職員の看取りケアに対する心構え、ご家族への対応などを学ぶことの重要性がより一層高まっております。しかしまだ各職員に対する研修等が不足している部分が否めません。次年度も引き続き他人事ではなく、自分の事として考えられる、利用者様が自分の家族だったらと考えられるような人材の育成を行って参ります。福祉人材の確保はまだまだ厳しい状況ですが、外国人材のみならず、介護助手職員の登用などにより、各人の業務内容を明確にして、それぞれが効率的に業務に専念できるような環境を整えつつ様々な採用活動を行い採用に繋げたいと考えます。

令和5年度は次年度に向けての種をまく事業内容が多くありました。令和6年度はそのまいた種がきちんと育ち、形となり、継続していけるように力をいれて参ります。

I 法人の運営体制

理事・監事体制

理事長	中村	雅英
理事	鈴木	智
理事	吉田	一巳
理事	小川	一夫
理事	長谷川	祐一
理事	中村	安佐子（常勤）
監事	山野邊	元則
監事	木幡	仁一

評議員体制

評議員	赤津	隆彦
評議員	阿部	健一
評議員	門屋	博史
評議員	菊地	秀明
評議員	鈴木	重光
評議員	村田	裕之
評議員	箱崎	孝成

第三者委員会体制

委員	菊地	秀明
委員	山野邊	元則

評議員専任解任委員会体制

委員	中村	秀樹
委員	山野邊	元則
委員	木幡	仁一
委員	巽	龍也
委員	寺島	正

業務顧問

会計顧問	パートナーズ国際共同公認会計士事務所	渡部	修
労務顧問	あすか社会保険労務士法人	菊地	秀明

II 法人の事業

特別養護老人ホームサニーポート小名浜

1	特別養護老人ホーム事業	80床
2	短期入所生活介護事業	20床
3	通所介護事業	30名

- 4 居宅介護支援事業 180名
- 5 その他（施設内託児事業・企業主導型保育園受託事業）

Ⅲ 理事会・評議員会の開催

令和5年度における理事会を次のとおり開催致しました。

回	開催日	場 所	内 容
第1回	令和5年6月1日	サニーポート 小名浜	事業活動実績報告、採用報告、その他（外国人の介護職員採用状況）、令和4年度事業報告、令和4年度決算報告、令和4年度監事監査報告次期理事・監事（案）の提出について、令和5年度評議員会の開催日時及び議案について、評議員選任・解任委員の選任（案）について、銀行の短期運営資金の借替えについて
第2回	令和5年6月24日	サニーポート 小名浜	理事長の互選について
第3回	令和5年10月2日 （提出日）	書面による理事会の決議	特別養護老人ホームサニーポート小名浜の防犯カメラシステム入替工事について
第4回	令和5年12月21日	サニーポート 小名浜	事業活動実績報告、外国人（ミャンマー）の介護職員採用報告、令和5年度補正予算について、防犯カメラシステム入替工事入札に基づく契約について、外調機入替工事の随意契約について、温冷配膳車の購入について、電話交換機の入替工事の入札について、電気料金について、給与規定について
第5回	令和6年3月28日	サニーポート 小名浜	事業活動実績報告、採用報告、令和5年度補正予算について、次年度予算について、次年度事業計画について

令和5年度における評議員会を次のとおり開催致しました。

開催日	場 所	内 容
令和5年6月22日	サニーポート小名浜	事業活動実績報告、令和5年度事業計画、令和4年度事業報告、令和4年度決算報告、令和4年度監事監査報告、次期理事・監事（案）の選任について、評議員選任・解任委員の一部変更について

令和５年度における懲罰委員会を次のとおり開催致しました。

開催日	場 所	内 容
令和５年９月１日	サニーポート小名浜	介護職員による施設利用者に対する暴行事案について

Ⅳ 役員の研修

令和５年度の役員研修につきましては、９月から１１月の間、福島県社会福祉協議会主催のオンライン研修等が開催されましたがコロナ禍等により参加致しませんでした。

Ⅴ 職員の推移

職員の退職者数は、開設年度が最も多く、離職率が２６．７パーセントで、その後離職率が１０数パーセント台まで低下していましたが、令和５年度は、２０．３パーセントと、やや上昇しました。

全体の退職者数は、２４名であり、入職後から退職までの期間が、１ヵ月未満が１名、１～３ヶ月が５名、６ヶ月～１年未満が３名と早期退職者が１３名と多かった事が職員の雇用に関する今後の課題であります。

職員の退職により各部署における欠員が生じていることから有料人材紹介の利用が多くなっております。求人活動におきましては、ハローワーク小名浜、福島県社会福祉協議会、ふくしま生活・就職応援センターや福祉系の専門学校、大学に求人票の提出をするとともに、福島県労働局等主催の就職説明会に参加、更に、いわき市内の各高等学校等の進路指導教諭から求職情報を得て、採用活動を行っております。令和６年度の新卒採用予定者数につきましては高卒１名、専門学校卒・大卒で１名と致しました。年間を通じ、学校訪問の回数を多くして進路指導教諭と面会の上、求職者情報を得て新卒の採用に鋭意取り組んで行きたいと考えております。

各部署配置人員（全職員数）

管理職	事 務	相 談	居宅介護	機能訓練	看 護	保 育	栄 養
３	４	３	６	３	１１（３）	８（６）	２
用務運転等	渚（短期）	潮（特養）	湊（特養）	旭（特養）	岬（特養）	通 所	歯科衛生
８（８）	７（１）	１１（３）	１１（４）	１２（４）	１２（３）	１０（６）	１
アドバイザー	介護助手						
２	４（４）						

※数字は総人員 （ ）内数はパート数

各部署離職率

管理職	事 務	相 談	居宅介護	機能訓練	看 護	保 育	栄 養
1 (0.85%)	0	1 (0.85%)	1 (0.85%)	1 (0.85%)	2 (1.7%)	2 (1.7%)	0
用務運転等	渚（短期）	潮（特養）	湊（特養）	旭（特養）	岬（特養）	通 所	歯科衛生
4 (3.4%)	3 (12.8%)	1 (0.85%)	2 (1.7%)	3 (12.8%)	3 (12.8%)	0	0

※ 数字は離職者数を示し、％は全体に対する離職率を示す

※ 1人に対して0.85％（離職率20.3％÷離職者数24人）

全体離職率

令和5年度末職員数 118名

令和4年度離職者数 24名

離職率 20.3％

全体職員の推移

	採用者数	離職者数	年度末在職者数	離職率
平成27年度	52	27	101	26.7％
平成28年度	29	26	104	25.0％
平成29年度	27	21	110	19.0％
平成30年度	18	20	108	18.5％
令和元年度	17	19	106	17.9％
令和2年度	21	21	106	19.8％
令和3年度	19	15	110	13.6％
令和4年度	26	26	110	23.6％
令和5年度	35	24	118	20.3％

VI 各事業別報告

特別養護老人ホームサニーポート小名浜

令和5年度稼働率は、令和4年度97.40％に対して3.1％低い94.3％でした。主な要因としては、令和5年5月から7月までの退居者が6名であり、その間の入居対応に時間を要した部分があげられます。

今後の課題として、退居者が重なったときの迅速な入居についての対応があげられます。

入居生活上の処遇としては、長く続いた新型コロナウイルス感染症対策から少しずつ、通常の生活へ変化する1年でありました。面会もガラス越しやオンライン面会から、まだ制限はあるものの1階ロビーでの直接面会や一緒に屋外散歩を行って頂けるまでになりました。また、なるべく控えて頂いておりましたご家族との外出や外泊等も行えるようになり、各ユ

ニットでも、外出（ドライブ）や施設内での飲食を伴うような調理レクリエーションなどの行事も活発に行うことができました。今後は、地域のボランティア受け入れ等、以前のような交流ができる体制の再構築が求められます。

入居者の平均要介護度は、令和4年度4.20に対して令和5年度は4.23でありました。

施設での看取りについても令和5年度には12件が実施されました。看取りの支援開始から看取りまでの期間や医療行為の有無、ご家族の支援内容等多様化しており、よりきめ細かい対応が求められました。

今後の課題として職員個々が看取り期のみならず、年々多様化する入居者の生活様式に対して個別に支援できる知識や技術の習得、そして対応できるチームケアの実践を目指していきます。

令和5年度特別養護老人ホーム稼働率推移（％）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期平均	
98.4	89.9	89.8	94.7	93.7	98.0	94.1	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期平均	年間平均
96.7	92.6	96.5	93.4	93.8	93.5	94.4	94.3

令和5年度特別養護老人ホーム入居者数実績（人）

上期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護1						
要介護2	1	1	1	1	1	1
要介護3	10	10	10	10	12	12
要介護4	38	39	37	38	39	38
要介護5	33	31	32	32	32	30
在籍計	82	81	80	81	84	81
入院：延日数	26	168	200	113	74	54
外泊：延日数	0	2	0	0	1	0

下期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均／月
要介護1							0	0
要介護2	1	1	1	1	1	1	12	1.00
要介護3	13	12	12	12	11	10	134	11.16
要介護4	36	35	37	34	35	36	442	36.83
要介護5	31	31	33	32	31	32	380	31.66
在籍計	81	79	83	79	78	79	968	80.66

入院：延日数	116	133	90	174	126	105	1379	114. 92
外泊：延日数	0	0	1	1	1	0	3	0.50

令和6年3月31日現在入居者介護度別状況（人）

性別	男性	女性	合計
要介護1	0	0	0
要介護2	0	1	1
要介護3	5	6	11
要介護4	7	29	36
要介護5	9	23	32
合計	21	59	80

令和6年3月31日現在入居者介護度別平均年齢状況（歳）

性別	男性	女性	平均
要介護1	-	-	-
要介護2	-	89. 00	89. 00
要介護3	75. 80	89. 83	82. 81
要介護4	79. 57	88. 90	84. 24
要介護5	79. 78	86. 45	83. 12
平均	78. 38	88. 55	84. 79

令和6年3月31日現在入居者介護度別市町村状況（人）

市町村名	いわき市		富岡町		大熊町		檜葉		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
要介護3	5	6	0	0	0	0	0	0	5	6
要介護4	6	29	1	0	0	0	0	0	7	29
要介護5	9	20	0	0	0	1	0	1	9	22
小計	20	56	1	0	0	1	0	1	21	58
合計	76		1		1		1		79	

短期入所生活介護事業所サニーポート小名浜

令和5年度稼働率に於きましては、令和4年度60. 7%に対して63. 3%でした。利用者の滞在期間もコロナ禍の様な長期滞在から短期利用へ移行し、利用者家族の感染症罹患等

による受け入れ等はありませんでしたが、虐待など福祉目的での緊急受け入れは令和 4 年に比べて減少しました。

下期には利用者の生活の質の向上を図るためにデイサービス職員がレクリエーションを行うなど、デイサービスとショートステイ利用者のケアの統一を図りました。

今後の課題として、近年増加している福祉的なニーズや利用者の多様なニーズに合わせたレクリエーションや介護技術等に柔軟に対応できる体制の構築が求められます。

令和 5 年度短期入所生活介護事業所稼働率推移 (%)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上期平均	
50.8	47.9	44.8	48.7	77.3	85.7	59.2	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	下期平均	年間平均
74.5	59.2	66.6	65.0	70.2	68.7	67.4	63.3

令和 5 年度短期入所生活介護事業所利用者数実績 (人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
要支援 1	1		1		1								3
要支援 2					2	2	1	2	1	1			9
要介護 1	4	4	4	6	5	6	4	3	5	5	8	6	60
要介護 2	11	11	11	11	11	9	8	9	8	10	10	12	121
要介護 3	4	5	5	7	11	12	12	11	10	11	7	12	107
要介護 4	5	6	6	5	8	8	8	6	7	4	5	5	73
要介護 5	5	3	3	4	5	6	5	5	6	7	5	2	56
合 計	29	29	29	33	40	41	37	34	36	37	35	37	417

令和 6 年 3 月 3 1 日現在利用者介護度別状況 (人)

性別	男性	女性	合計
要支援 1	0	0	0
要支援 2	0	3	3
要介護 1	6	9	15
要介護 2	2	24	26
要介護 3	5	26	31
要介護 4	5	10	15
要介護 5	3	7	10
合計	21	79	100

令和 6 年 3 月 3 1 日現在利用者介護度別平均年齢状況（歳）

性別	男性	女性	平均
要支援 1	0	0	0
要支援 2	0	92.33	92.33
要介護 1	81.50	89.00	85.25
要介護 2	85.00	87.83	86.42
要介護 3	87.60	85.34	86.47
要介護 4	75.40	89.10	82.25
要介護 5	86.33	82.57	84.45
平均	83.17	87.70	86.19

通所介護事業所サニーポート小名浜

令和 5 年度稼働率に於きましては、令和 4 年度 46. 1%に対して 4. 3%増加の 50. 4%でした。

令和 4 年度から引き続き令和 5 年度も「来ていて楽しい・また来たくなるデイサービス」を目標に掲げ、各種業務改善やレクリエーションを行いました。

業務改善面では、デイサービスとショートステイを併用利用する利用者に対して、従前は各サービスの職員がケアにあたっていたところを、在宅ケアにあたる職員を共通化することで、サービスの隔たりなく統一したケアの提供を目指しました。これによりケアの統一だけではなく在宅での状態等の情報共有もスムーズに行えるようになりました。レクリエーションの面では、炊き込みご飯や鉄板おやつ等の調理レクリエーションや施設全体を利用して歩行を促す歩行レクリエーション等を行いました。

今後の課題としては、まだまだ定数に満たない利用が続いているため、更なる利用促進に向けた啓発が必要であると考えます。

令和 5 年度通所介護事業所稼働率推移(%)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上期平均	
50.5	52.7	49.7	50.1	49.6	50.6	50.5	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	下期平均	年間平均
50.5	49.2	50.3	46.3	52.9	52.6	50.3	50.4

令和 5 年度通所介護事業所利用者数実績

	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
要支援1	1	4	1	5	1	4	1	4	1	5	1	4

要支援2	3	9	3	11	3	11	3	11	3	12	3	9
要介護1	10	71	12	92	10	81	10	89	10	93	11	100
要介護2	14	109	14	111	15	144	15	132	13	131	14	133
要介護3	9	122	9	125	10	99	9	97	12	108	10	104
要介護4	5	57	6	75	5	34	4	41	4	35	4	34
要介護5	2	7	2	8	2	15	3	17	3	18	3	11
合計	40	366	43	411	42	373	41	376	42	385	42	382

	10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	延人数
要支援1	2	8	3	9	3	11	3	9	3	9	4	12	84
要支援2	3	11	3	13	2	13	2	12	2	12	2	13	137
要介護1	12	100	10	90	10	79	12	69	12	87	12	84	1035
要介護2	12	112	11	97	11	112	10	92	10	100	11	118	1391
要介護3	8	94	9	105	7	86	6	80	6	76	6	61	1157
要介護4	5	51	7	60	8	75	7	65	8	82	8	82	691
要介護5	4	18	3	10	3	16	3	14	3	10	2	12	156
合計	41	375	40	362	39	368	38	320	39	355	39	357	4430

令和6年3月31日現在利用者介護度別状況（人）

性別	男性	女性	合計
要支援1	1	3	4
要支援2	1	2	3
要介護1	7	5	12
要介護2	3	11	14
要介護3	2	4	6
要介護4	4	5	9
要介護5	1	1	2
合計	19	31	50

令和6年3月31日現在利用者介護度別平均年齢状況（歳）

性別	男性	女性	平均
要支援1	64.00	84.00	74.00
要支援2	83.00	93.00	88.00
要介護1	84.00	86.60	85.30

要介護 2	86.00	86.45	86.23
要介護 3	79.50	88.00	83.75
要介護 4	82.75	83.40	83.08
要介護 5	55.00	71.00	63.00
平均	76.32	84.64	80.48

居宅介護支援事業所サニーポート小名浜

令和 5 年度に於きましては、月平均で前年度 103. 8 人より約 17. 0 名増の 120. 8 人の給付管理を行いました。令和 5 年 7 月からケアマネージャー 1 名を増員した結果、1 名あたりの平均受け持ち件数が前年度 34. 6 人から 4. 4 名減の 30. 2 名になっております。また地域の相談窓口機能としてオレンジカフェ以和貴（認知症カフェ）を再開しました。

今後の課題と致しまして、1 人あたりのケアプラン受け持ち件数が減少しているため、主任ケアマネージャー 2 名体制の利点を活かした活動があげられます。昨年に引き続き小名浜地域での高齢者問題に対して、社会福祉法人が設置する居宅介護支援事業所としての役割を明確にした地域密着の相談窓口機能の強化が必要であると考えます。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
給付管理利用者数	72	72	72	95	98	93
予防給付管理利用者数	26	25	26	32	30	32
合計	98	97	98	127	128	125
契約者数	105	103	104	133	131	132

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
給付管理利用者数	100	99	100	97	91	92	1, 081
予防給付管理利用者数	33	33	34	33	33	32	369
合計	133	132	134	130	124	124	1, 450
契約者数	133	137	136	139	124	124	1, 501

居宅介護支援事業所サニーポート小名浜内郷事業所

令和 5 年度に於きましては、月平均で、前年度 99. 33 人より名 9. 83 減の 89. 5 人の給付管理を行いました。令和 5 年 7 月からケアマネージャー 3 名体制から 2 名体制へと変更になりましたが、ケアマネージャー 1 名の平均受け持ち件数としましては前年度 33. 11 人から 11. 64 名増の 44. 75 名になっております。

昨年度同様、地域の高齢者問題に関するどのようなケースに対しても「断らない」「ていねいに」を念頭に事業を行いました。従来より依頼の多かった相双地域の利用者以外に内

郷、平地域の利用者も少しずつ増えており、地域におけるサニースポーツ小名浜の認識が広がってきているものと感じます。

今後の課題としまして、継続して地域の福祉ニーズに対応できるように地域包括支援センターや行政・地域の医療機関等との意見交換会や事例検討会、地域民生員等とのコミュニケーションを図ります。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
給付管理利用者数	89	84	82	61	59	65
予防給付管理利用者数	21	20	22	18	20	20
合計	110	104	104	79	79	85
契約者数	116	109	104	78	79	85

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
給付管理利用者数	66	65	65	65	66	61	828
予防給付管理利用者数	19	20	21	21	21	23	246
合計	85	85	86	86	87	84	1,074
契約者数	90	87	86	86	87	84	1,091

公益的な取り組みについて

令和 5 年度においては、コロナ禍に行うことができなかった認知症カフェ「オレンジカフェ以和貴」の開催再開や地域の介護職員育成事業としての「介護職員初任者研修」を実施いたしました。

オレンジカフェ以和貴は毎回 10 名前後の地域の方に利用して頂き、地域の相談窓口としての機能や高齢者の外出機会の創出となりました。

介護職員初任者研修は、約 3 ヶ月間、土日コースで開催され 6 名の受講生が講習を修了することができました。

保育事業

開設 3 年目となる令和 5 年度の職員の体制としては、保育士 8 名、看護師 2 名（令和 6 年 3 月 31 日現在）での運営となりました。

処遇面では、園児 1 人ひとりの生活リズムや生活様式、発達に合わせた保育を心がけ、年齢によるクラス分けだけでなく、月齢を超えた保育をすることできめ細やかで、より個別性の高い保育を目標としました。

また、保護者が安心して利用できる保育園となるため、保護者への家庭における過ごし方等の聞き取りを密に行いました。

様々な感染症への対応は看護師と連携を取りながら、園児の健康管理に留意し、その都度園全体で協議しながら取り組んできました。

今後の課題としては、安定的な保育の提供に向けて職員一人ひとりの資質向上が求められておりますので、法人内外での研修の充実や他の関連団体との情報交流等の機会も充実させていきます。